

講義名	自己発見とキャリア開発 B (K54:水2クラス)			授業形態	
担当教員	山田 勇人	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

学部留学生として必要な基礎的かつ総合的な日本語力を定着させ、さらにそれを応用できることを目的とする。書くこと、話すことといったアウトプットを中心に、より高度な日本語の文筆力およびコミュニケーション能力を高める。アクティブ・ラーニングを心がけたクラス活動を行うことを目指す。

到達目標

- ・学部留学生が、基礎的かつ総合的な日本語力を定着させ、より高度な日本語の文筆力、聴解力、およびコミュニケーション能力を高めることができるようになる。
- ・ポートフォリオが作成できる文筆力、聴解力等の日本語力を高めることができるようになる。
- ・学部留学生が、アクティブ・ラーニング等によるクラス活動を通して、総合的な日本語能力を高める必要があることに気づくことができるようになる。
- ・リョウカ寮に参加し、日本人と交流することで自国の文化と日本の文化の違いを発見することができるようになる

提出課題

予習、復習、ワークシート等、授業中にその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回課題を出し結果を説明する。

評価の基準

課題の提出（50％）、レポートの内容（50％）による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

全授業回数の1/3以上欠席した場合は、単位を認定することができない。真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.テーマ別 上級で学ぶ日本語 三訂版 ワークブック、	松田浩志、山田勇人 他	研究社	2310	9784327384753
.テーマ別 上級で学ぶ日本語 三訂版 ワークブック CD、	松田浩志、山田勇人 他	研究社	3080	9784327991340

その他

授業内で配布する。

授業計画

- 第1回 語彙P1 / 上級聴解 / レポートを作成する（文体の違い）
- 第2回 語彙P2 / 時事問題を読む（環境問題）及び要約 / レポートを作成する（レポートの構成を知る）
- 第3回 語彙P3 / 上級聴解 / レポートを作成する（データを読む）
- 第4回 語彙P4 / 時事問題を読む（経済問題）及び要約 / レポートを作成する（データからわかることを文章にする）
- 第5回 語彙P5 / 上級聴解 / レポートを作成する（問題提起）
- 第6回 語彙P6 / 時事問題を読む（少子化問題）及び要約 / レポートを作成する（引用）
- 第7回 語彙P7 / 上級聴解 / レポートを作成する（テーマ選び）
- 第8回 語彙（中間試験） / レポート作成する（構成を考える、資料を集める）
- 第9回 語彙P8 / 時事問題を読む（新しいビジネス） / レポートを作成する（執筆する）
- 第10回 語彙P9 / 上級聴解 / レポートを作成する（レポートを読み合う）
- 第11回 語彙P10 / 時事問題を読む（教育問題） / レポートを作成する（推敲）
- 第12回 語彙P11 / 上級聴解 / レポートの内容を発表する（聞き手を意識した発表を考える）
- 第13回 語彙P12 / 時事問題を読む（福祉問題） / レポートの内容を発表する（前半）
- 第14回 語彙P13 / 上級聴解 / レポートの内容を発表する（後半）
- 第15回 語彙（まとめ試験） / レポートの講評

- ・語彙は、『流通科学大学留学生のための語彙』を使用する
- ・時事問題や聴解の内容についてグループディスカッションも行う
- ・日本起こっている社会的な問題をテーマに取り上げ、レポートを1200 - 1600字程度で作成する

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A: PBL (課題解決型学習)	<input type="radio"/> I: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> U: ディスカッション、ディベート	E: グループワーク
<input type="radio"/> O: プレゼンテーション	K: 実習、フィールドワーク
キ: その他 (A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布する資料を熟読し、課題や問題点をまとめたり、分からない文法や語彙などがあたら、意味や用法を調べておく...各授業2時間程度
各回で配布した資料を熟読し、理解が不十分だった点を確認する...各授業 2 時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

留学生を対象とした科目群で、日本語の 4 技能（聞く、話す、読む、書く）について実的かつ基礎的な語学力を修得するとともに、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成する科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考